



HANA NO EN

A cherry blossom party was held on February 20 at the southern palace.

It was a good day, the sky was clear and the birds tweeted. The poets made Tanka.

A young woman sang and come "It's a hazy moon tonight!"

Genji pressed her. She said scary. "Who are you?"

"The thing that I met with you in tonight of a hazy moon is the deeply meaningful." He said and hugged her.

She was afraid but she was so lovely.

If I left, you will not look for me.

If I don't know your name, I can't find you because our relationship are over.

I am hanging around here because I want to see the moon on Mt. Iruya.

If you love me, I will not lose the way with gloom.

花の宴（原文）

如月の二十日あまり、南殿の桜の宴せさせたまふ。

日いとよく晴れて、空のけしき、鳥の声も、心地よげなるに、親王たち、上達部よりはじめて、その道のは皆、探韻賜はりて文つくりたまふ。

いと若うをかしげなる声の、なべての人とは聞こえぬ、

「朧月夜に似るものぞなき」

とうち誦じて、こなたさまには来るものか。いとうれしくて、ふと袖をとらへたまふ。女、恐ろしと思へるけしきにて、

「あな、むくつけ。こは、誰そ」とのたまへど、

「何か、疎ましき」とて、

「深き夜のあはれを知るも入る月の おぼろけならぬ契りとぞ思ふ」

とて、やをら抱き下ろして、戸は押し立てつ。あさましきにあきたるさま、いとなつかしうをかしげなり。

「憂き身世にやがて消えなば尋ねても草の原をば問はじと思ふ」

「いづれぞと露のやどりを分かむまに 小笹が原に風もこそ吹け」

「梓弓いるさの山に惑ふかな ほの見し月の影や見ゆると」

「心いる方ならませば弓張の 月なき空に迷はましやは」

花の宴（現代文）

二月二十日に南殿でお花見の会が開かれた。

良く晴れた空は美しく、鳥の声も心地よい日であった。詩人達は短歌を詠んだ。

若く美しい声の女性が『おぼろ月夜のように』と歌いながら近づいて来た。興味深く引き止めたら、『どなたですか?』と恐ろしそうに言った。

源氏は『貴方が愛しているおぼろ月夜のここで私と巡り会えたのも、深い縁というものでしょう。』と詠んで、そっと抱きしめ、部屋に入った。彼女は怖がったがその様子も愛らしかった。

「不幸な私が消えても、貴方は探さないでしょう。」

「お名前を聞いてなければ、あなたを捜しても縁は風に吹かれて無くなってしまいます。」

「いるさ山からの出る月が見たくてうろろろしています。」

「気にかけてくださるなら、月のない夜でも迷う事はないでしょう。」